

## 令和7年5月（第2回）教育委員会 議事録

### 1 開会及び閉会の日時

令和7年5月23日（金）午後2時00分～午後3時02分

### 2 場所 本館302会議室

### 3 出席委員

- ・教育長 松本 謙一
- ・同職務代理者 中川 日登美
- ・教育委員 藤原 洋
- ・教育委員 江川 由貴子
- ・教育委員 浦井 啓子

### 4 説明出席者

- ・教育部長 氏家 智伸
- ・教育部次長・教育総務課長 上野 容男
- ・中央図書館長 上野 真希
- ・総合政策部こども課長 山田 千佳子
- ・ブランド戦略部文化・世界遺産課長 野村 信晴
- ・生涯学習スポーツ課長 山下 真人
- ・教育総務課副参事 山本 佳和
- ・教育総務課主幹 佐藤 聖子
- ・教育総務課主幹 小谷 篤史
- ・教育総務課主事 北川 創平

### 5 傍聴者 なし

### 6 会議の要旨 午後2時00分、教育長が開会を宣し、議事に入る。

#### 1 教育長の報告

- 4月21日（月） 砺波地区教育センター総会出席
- 4月22日（水） 第1回行革推進本部会議出席
- 5月8日（木） 富山県市町村教育長会総会出席
- 5月12日（月） 管内教育長会議出席
- 5月20日（火） 中学校長会 出席
- 5月20日（火） 南砺市PTA連絡協議会定期総会出席
- 5月21日（水） 小学校長会出席

他、教育長が出席した会議・行事について概要の説明があった。

#### 2 前回議事録の承認 全員異議なく承認した。

#### 3 協議事項 なし

#### 4 報告事項

- (1) 令和6年度2月会議一般質問等について  
教育総務課長から説明を行った。
- (2) 令和7年度南砺市奨学金の貸与について  
教育総務課長から説明を行った。
- (3) 南砺市市民大学講座等の状況について  
生涯学習スポーツ課長から説明を行った。
- (4) 令和7年度放課後こども教室・土曜学習推進事業について  
生涯学習スポーツ課長から説明を行った。
- (5) 令和6年度南砺市立図書館利用状況について  
中央図書館長から説明を行った。
- (6) スクールソーシャルワーカー等の小・中・義務教育学校訪問について

教育総務課長から説明を行った。

(7) 南砺市こども計画の策定・公表について

こども課長から説明を行った。

5 その他

(1) 南砺市立図書館の6月事業について

中央図書館長から説明を行った。

6 今後の日程

次回教育委員会開催（予定）

日時 令和7年7月7日（月）午後3時00分から

場所 別館3階大ホール

7 議事

**報告事項（4）令和7年度放課後子ども教室・土曜学習推進事業について**

○教 育 委 員 員 今まで放課後子ども教室がなかった福光で、新たに始まるのはよかったです。この一覧表を見ると、ふくみつ放課後子ども教室は、福光体育館が活動場所となっている。放課後子ども教室は、放課後児童クラブと連携しているようだが、きつずらんどクラブなどに子供が参加している時に、福光体育館に移動して活動するということか。

○事 務 局 福光スポーツクラブが運営している放課後子ども教室は、放課後児童クラブと連携していない。新たに始まったもうひとつの技研サービスの事業については連携している。技研サービスの新たな事業と、以前から井波で行っているなんと元気がやっておられる学習活動の2つが今年度放課後児童クラブと連携している事業である。ふくみつ放課後子ども教室のほうは、これまでもトランポリンを主としたいろいろな活動をされていたが、活動の前後に子供たちが来て、トランポリンなどの活動が始まるまでの間、担当者をつけてしっかり学習支援をするということで今回この事業に入れさせていただいた。

○教 育 委 員 員 放課後子ども教室の経費について、1教室いくらという形なのか、指導者が指導した時間と謝金単価とをかけたものなのか。

○事 務 局 指導者の謝金単価と指導した時間で決めている。

○教 育 委 員 員 表を見ると上平では児童参加数のべ700人に対してのべ291人の指導者がついている。だいたい子供2.4人に1人指導者がついているということになるが、掛かっている経費はどのようになっているか。

○事 務 局 上平の放課後子ども教室ののべ指導員数は飛び抜けて多いが、かかっている経費はそこまで高くない。算定方法の資料を今持ち合わせていないため、改めて報告させていただきたい。

○教 育 委 員 員 経費が掛かっていないのなら、子供に手厚い指導になっていると言えるし、もし経費が掛かりすぎているということなら、効率を

見直さなければならないということになると思う。技研サービスの放課後子ども教室を見ると、のべ生徒参加人数が1650人に対してのべ指導員数が165人なので、10人の子供に対して1人の指導員となる。井波や福光の放課後子ども教室は1人の指導員に対する子供の人数がさらに多くなる。行う内容によって異なると思うが、指導員と参加する子供の人数の関係がよくわからないと感じた。

- 事務局 算定式があって、学習支援に対しての指導とそれ以外の活動に対する指導でも単価が異なる。今一度確認をさせてほしい。
- 教育委員 技研サービスという会社はどういった会社なのか、またどこにあるのか。
- 事務局 各児童館の指定管理者となっている業者が技研サービスである。岐阜市にある。
- 教育委員 指定管理しているところが、そのまま放課後子ども教室も運営するということが分かった。
- 教育長 上平ののべ参加児童数700人の予定と書いてあるが、本当に700人参加するのか、1年間経った時に実質100人しか来ていなかったということになると話が違ってくるので、確認しながら進めて行かなければならない。

#### 報告事項(5) 令和6年度南砺市立図書館利用状況について

- 教育委員 第3次南砺市教育振興基本計画の中で、平均貸出冊数の最終5年間の目標値が5.5冊となっているが、令和6年度の平均貸出冊数は、四捨五入するともう5.5冊になっている。目標を達成してよくやったという意見だけでなく、この目標の見立ては本当に正しかったのかと指摘される可能性があるのではないかと考えておく必要があると思う。
- 教育長 過去を見ると、平成30年は7冊になっている。
- 事務局 令和2年度は、コロナ禍で5.2冊まで落ち込んだ。令和5年度は、システムの更新によって臨時休館等があった関係で低かった。
- 教育長 それならば、委員のおっしゃるように、5.5冊という目標があまりにも低くないかと指摘されるように感じる。1度図書館で再検討をお願いしたい。資料を見ると、児童・生徒の読書環境はまだ定着していないように見える。この後どれだけ定着するかが重要だと思う。1週間に1回小中義務教育学校と連絡を取る等、地道にやっていく必要がある。

#### 報告事項(6) スクールソーシャルワーカー等の小・中・義務教育学校訪問について

- 教育委員 毎年とても丁寧にこのような訪問に行っているが、大体何パーセントの子供が観察対象になっているのか。近年増えているのか、ずっと横這いなのか。

- 事務局 傾向としては増えている。小中学校では、約1割が特別支援という状況である。
- 教育長 知的障害と情緒障害の学級が、今年から福野小学校と福光中部小を合わせて5クラスになった。近年明らかに多くなっている。
- 教育委員 情緒障害学級にいる子供たちの中学校卒業後の進路先というのが前から気になっている。これについては、どこも悩んでいるところだと思う。
- 教育長 中学校卒業後の引きこもり対策や就職対策はその子供たちがどうやって生きていくかということだ。小学校から高等学校までの段階では、比較的手厚いがその後の対策が何か必要ではないか。市長も大変気にしておられて、青池学園を積極的に誘致したのもそういう子供を少しでもなくしたいというところだと思う。
- 教育委員 そういった問題に対応するのは、主任児童委員か民生委員だと思うが、民生委員の活動の様子を見てみると高齢者に力を取られすぎていて、子供や引きこもりはなかなか手が回っていない。それに、今の民生委員は、その引きこもっている子供たちをどこへ繋げばいいかというノウハウをあまり持っていない気がする。何かどこかに、ゴールというか結びつけるところを民生委員や主任児童委員がわかるようにしてあげる必要があると思う。
- 教育委員 引きこもりに加えて、貧困問題等があると、社会福祉協議会などからいろいろ手だてがあるが、誰が声をかけるかということと、それに本人が応えてくれるかどうかということも課題だ。相談に乗っている人が1番よくわかっていると思うが、ここに相談したらいいとか、こんなところがあると紹介したとしても、動くのはその家族なので難しい問題だと感じる。
- 事務局 難しい課題だが、近年は県立高校へ特別支援学級から進学するというケースも増えているというふうに聞いている。
- 事務局 ひきこもり支援については、福祉課の生活福祉係で年齢に関わらず、生活困窮と合わせてひきこもりの相談を受けている。また井波にあるマーシ園の、障がい者の相談支援センターピアサポートあいでも引きこもり支援をしている。ピアサポートあいという名前で相談員が地域からの情報を聞いて、希望するようであればアウトリーチという形で定期的に訪問したり、居場所として旅川福祉交流館を提供したりということを、市の福祉課と連携して行っている。若い方なら、呉西地区の高岡地域若者サポートステーションなど、地元よりも高岡や射水まで移動して、そこを居場所として利用している方もいらしゃる。まったくの引きこもりとなると、家から出ることもなかなかできないので、こちらからのアウトリーチという関わり方になるが、いろいろな相談先は設けてあるので、連携しながらやっていたらと思う。

○教 育 長 そういった制度を知らない人にどう伝えていくのかということも課題だ。

○事 務 局 民生委員などから情報をいただいて、対応をしている。本人からの助けてという声よりは、家族の方からの支援の相談が多いので、いま特に力を入れているのは家族のほうに対する支援である。

○教 育 長 課をまたいでみんなでやっていくしかないと思っている。

#### その他（２）学校のあり方検討委員会について

○教 育 委 員 今各地域で学校のあり方検討委員会が進んでいると思うが、先日の総合教育会議では、事務局から現在の出生をベースに話をしていると聞いた。一方、社人研のデータでは、2060年の南砺市の出生数は83人と示されている。数年前までのイメージだと300に近い出生数があるという前提で動いていたが、現実には激減している。今の努力目標が160人で、その目標に向かって進めていくことはわかるのだが、今現在の想定より悪い状況になることもありうるということを周知した上で話を進めていかななくてはいけないのではないか。

○事 務 局 市全体の学校のあり方検討委員会の中では、福野中学校を建て替える時期には、そのような議論をする段階に来るのではないかという話は出ている。ただ、現在の校舎が使える間は、実際に生まれている児童生徒数で考えている。

○教 育 長 今進んでいる学校のあり方検討委員会というのは、15年から20年の先を見ている。20年後になったら今の出生数からみても、きっと相当児童生徒数は減っており、約150人と考えられる。その頃に、福野中学校は新築する時期になる。その段階の学校のあり方検討委員会では、2060年を見据えたかたちでの建て替えを考えていかなければならない。南砺市が他の市町村と違うところは、20年前に合併した時に多くの学校がきれいになったことで、充実した環境でまだ教育をできるだろうというのが今の南砺市学校あり方検討委員会の方向だ。20年後には大きな決断をしなければならない時期が来るのではないかと思う。その頃には、教育の在り方は大きく変わっていて、大きな学校施設がなくても、様々な教育ができるようになっているかもしれない。今と同じ制度であるかもわからないため、慌ててやる必要はないというのが南砺市の考えだ。

○事 務 局 今統合に関しては新築増築はしないということを絶対条件で進めている。新築が必要となれば、その時はその先を見据えた人数でいろいろな想定を行う必要があると、あり方検討委員会の中でも議論がされている。

午後3時02分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

令和7年5月23日

南砺市教育委員会

教育長